



—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進医療の推進
良き歯科医師の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 高橋 浩二
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1

TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

現在そして未来の歯科衛生士業務とは

美容歯科 科長 真鍋 厚史

皆様は歯科衛生士という職種をご存知でしょうか？おそらく歯科医院へ行った時歯科医師のそばにいて治療の準備や薬品の整理をしたり、口腔内の水を吸ったりしている女性だろうと思うでしょう。四半世紀前まではこのような歯科医療の補助的役割だったかもしれませんが。その当時はほとんどの歯科衛生士学校が2年制で、就学してからあつという間に歯科医療の現場に駆り出されていました。しかし平成22年からは、法改正により歯科衛生士学校の修業年限は3年以上となり、さらには4年制大学として学士号を取得できる学校や大学院の修士課程へ進学する衛生士も増えつつあります。また、平成27年4月1日施行の法改正により歯科衛生士の条件であった「女子」が「者」となり、歯科医療を担う仲間として男子歯科衛生士が加わる日も間近に迫っています。

そんな中、衛生士業務はどのように変化してきたのでしょうか。上述したように以前からの主な業務は歯科医師あるいは歯科医療の補助としてまたは秘書的な役割が主だったのではないのでしょうか。ところが現在ではこのような業務も継続しておりますがもっと大切な口腔の予防、継続的な口腔管理業務が主流となってきております。言い換えると患者さんがお見えになって主訴の内容を歯科医師が把握しその処置をした後で口腔衛生処置を実施していきます。さらに一連の診療が終了しいわゆるメインテナンスに移行するところからは一気に歯科衛生士の役目が増えます。もう二度と口腔内の疾病に罹患しないよう口腔観察と検査を徹底的に行ってそれを継続的に管理していく任務を担っています。いわゆるプライムヘルス

アを十分認識してマネジメントができる衛生士を目指すようになってきております。当病院でも今年度からこのようなシステムを歯科衛生士が中心となってScientific Oral Health Promotionと命名し主に診療が終了した患者さんを中心に継続的な口腔管理を行っております。具体的にはそのような患者さんに対して唾液、口臭検査などを中心に唾液量や歯の測色なども取り入れてさらなるQOLの向上を目指し口腔管理を実施しております。



ご興味のある方がいらっしゃいましたら是非一度当院4階美容歯科外来「お口の健康センター」までお問い合わせください。



Scientific Oral Health Promotion

～口元からより美しく、健康に！～

コンセプト(目的、対象)

口元からより美しく健康に！

時代は..

「予防」から「管理」へ

・目的

従来は、治療終了後「予防」を行えば次の疾病にかかるリスクは低くなると考えられていました。しかし、お口の中の環境はさまざまな要因が絡み合い変化が生じます。旧来型の1つの方法でアプローチをするのではなく、お口の中の環境を数値化して、個人に合った「管理」を行うことが重要になります。

・対象

- ・治療を終了した方
- ・定期健診を希望されている方
- ・自費治療を行っている方

治療終了が、お口の管理のスタートです！

昭和大学歯科病院 お口の健康センター

美容歯科 紹介

「美容歯科」と聞いて具体的にどんな治療をしているのか想像がつかない人は多いと思います。または、みなさんがすぐに思い浮かぶのは、ホワイトニングや白い被せ物でしょうか。

「美容歯科」はむし歯などに詰め物をする保存修復学をルーツとしています。2004年に美しい口元の治療の提供とお口の健康増進を目的とし、日本で初の「美容歯科」として保存修復科から独立して開設され、今年で12年目を迎えました。

さて「美容歯科」では具体的にどのような治療をしているかという、むし歯の治療を中心に白い被せ物・歯の漂白・歯のマニキュア・歯肉のピーリング・リップマッサージなど様々な治療を行っております。

一方で当科が力を入れているのは出来るだけ歯を削らない治療(最小限の侵襲:ミニマルインターベンション:MI)です。そのために当科では1980年代から歯と白いプラスチック材料(コンポジットレジン)を強固に接着させる研究を行ってきました。歯科治療の進歩はめざましく、新しく様々な歯科材料が開発されています。ひと昔前では銀歯でしか治せなかったものが、今では歯と同様な色で治すことが出来るようになったり、患者さんの選択肢も広がりました。歯を白くしたいという方や美容歯科に興味のある方はまずご相談ください。(保険適応と適応外の治療があります。患者さんの口腔内状態によっては行うことが出来ない治療もあります。ご了承下さい。)

また近年、歯の漂白の関心も高まり、自宅でも治療が受けられるようになりました。しかしながら、間違った手法などで漂白をする方も増加しつつあり、このような問題を鑑みて今年春から美容歯科よりホワイトニング専門の外来を立ち上げました。ホワイトニング外来には、3名の歯科医師と日本歯科審美学会認定のホワイトニングコーディネーターの資格を持った2名の歯科衛生士が在籍しております。

希望された患者さんは、ホワイトニング前のお口の診査・歯の測色後に歯科衛生士によるクリーニングを行ってから治療にはいります。

残念ながら着色の原因も様々で、すべての患者さんが希望通りの白さになるとは限りませんが、専門外来としてより正確な施術と安心安全で、できる限り患者さんの希望に沿えるよう治療しています。

また、美容歯科では再着色防止効果のある漂白剤や、着色の原因に応じた最適な漂白剤などの研究も行っておりますのでお気軽にご相談して頂ければ幸いです。

美容歯科 科長 真鍋 厚史



ホームホワイトニングで使用するトレーと薬剤



治療前(金属の被せ物)

治療後(セラミックの被せ物)



美容歯科 スタッフ

平成28年1月号に掲載した「義歯ができるまで 第1回」では(1)簡単な型採り、(2)精密な型採り、そして精密な模型の製作までを説明をしていきました。本号では、その後の工程から、入れ歯の完成までをご紹介します。と思います。

(3)噛み合わせをとる

まず、前回の工程で製作した模型の上で咬合床(こうごうしょう)という装置(写真1)を製作します。この装置の赤い部分は蝟(ろう)でできており(蝟堤)、軟化して形態を調整することができます。この咬合床をお口の中に入れ、噛み合わせの位置・高さ、唇の張り具合、顔貌の見た目などを確認しながら、蝟堤を修正していきます(写真2)。

(4)試し入れ、歯並びの確認

咬合床を使用して、噛み合わせの位置を決めた後は、蝟堤の上に人工の歯を並べていきます。歯の並べ方により、見た目や入れ歯の安定が大きく変わるため、慎重に行っていきます。人工の歯には形や大きさや色、材質まで様々な種類が用意されており、患者さんの要望・顔の輪郭・年齢・

性別・お口の大きさなどを参考に選んでいきます(写真3)。こうして出来上がったものを蝟義歯と呼びます(写真4)。この蝟義歯を患者さんに装着し、最終的な歯並びや噛み合わせを確認していきます。最後に蝟義歯の蝟と土台の部分を最終的な入れ歯の材料に置換して完成となります。

(5)完成

このように、多くの手順に沿って製作された入れ歯でも調整なしで使用できることはほとんどありません。口の開け閉めにより入れ歯が動いてしまったり、噛むことにより痛みが生じたりするためです。そこで、新しい入れ歯の装着時には診療室内で必ず調整を行います。それでも、初めのうちはどうしても違和感や痛みが消えずに何度も調整を重ねる場合もあります。こうして調整を繰り返すことにより完全にオーダーメイドの入れ歯を作ることができるのです。

現在の入れ歯でお困りの方、その他入れ歯についてご質問のある方は、ぜひ担当医にご相談ください。



写真1 上下顎の咬合床

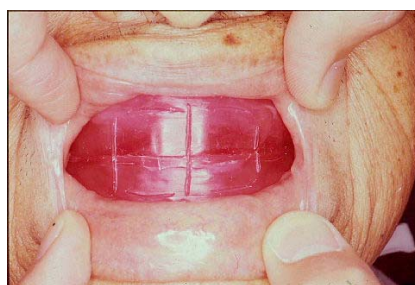


写真2 お口の中での咬合床を調整しているところ



写真4 人工の歯が並べられた蝟義歯



写真3 人工の歯には多くの形や色があります

第19回 昭和大学公開講座 後援：大田区
昭和大学

「暮らしと健康」 ～お口の健康～

[日時] 平成28年10月15日(土)
13:00～15:00

[会場] 昭和大学歯科病院 1号棟6F臨床講堂
(東京都大田区北千束2-1-1)

第1部 13:00～14:00	第2部 14:00～15:00
<p>認知症を理解して、 上手に対応する</p> <hr/> <p>昭和大学医学部 (精神医学科) 准教授</p> <p>たかしお おさむ 高塩 理</p>	<p>介護予防と口腔ケア ～お口のトレーニングを 紹介しましょう～</p> <p>伸ばそう健康長寿 食べる幸せ、生きる力は健口から</p> <hr/> <p>昭和大学歯学部 (口腔リハビリテーション科) 教授</p> <p>たかはし こうじ 高橋 浩二</p>

※ 二部構成(途中、休憩や質疑応答を含む)

歯科用品
プレゼント
あります!

★ 参加費無料(事前予約不要) / 先着100名様★
受講後、氏名入りの受講証を発行ご希望の方は事前申込が必要です。

昭和大学歯科病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html> 

編集後記

41個のメダルを獲得したりオオリンピックの感動も冷めやらぬうちに、パラリンピックが始まりました。様々な障害を持つ選手達が義足や車椅子を自在に操り、各種目で躍動している姿をご覧になって胸が熱くなった方も多くいらっしゃるのではないのでしょうか。ところで義歯やマウスピースなど取り外しタイプの装置をお使いの方、パラリンピックの選手達のように装置を自在に操っていらっしゃいますか？装置の使い方を間違えると咬み合わせの効率が落ちたり、装置を支えている歯にダメージが及ぶこともあります。パラリンピックの選手を目標に装置を上手に使いましょう。

装置をお使いの皆さま、担当歯科医に正しく使えているか、お聞きになってはいかがでしょうか。(K.T)